

製品名: SIK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17898**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	SIK1
別名	SIK1; SIK; SNF1LK; Serine/threonine-protein kinase SIK1; Salt-inducible kinase 1; SIK-1; Serine/threonine-protein kinase SNF1-like kinase 1; Serine/threonine-protein kinase SNF1LK
遺伝子 ID	150094.0
SwissProt ID	P57059
免疫原	抗血清はヒト SIK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 148-197

背景

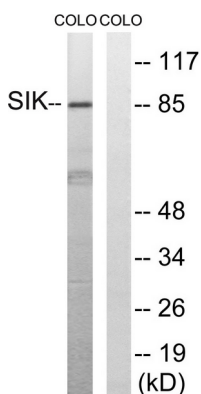
触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子:マグネシウム。酵素調節:STE20 関連アダプターアルファ

(STRAD アルファ) 擬似キナーゼおよび CAB39 との複合体における STK11 による Thr-182 のリン酸化によって活性化されます。機能: 心筋細胞の分化および/または原始的な心室形成の最初期段階における一時的な役割。また、骨格筋の成長および/または分化の最初期段階にも重要である可能性があります。G2/M 細胞周期の調節における潜在的な役割。CREB 特異的コアクチベーターである CRT1-3 をリン酸化および抑制することにより、CREB の活性を阻害します。PTM: DNA 損傷時におそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。AMPK サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1 つの UBA ドメインを含む。細胞内局在: リン酸化されると細胞質に移行し、そこで YWHAZ と結合します。サブユニット: Thr-182 がリン酸化されると、YWHAZ に結合して活性化されます。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: STE20 関連アダプター アルファ (STRAD アルファ) 擬似キナーゼおよび CAB39 と複合体を形成した STK11 による Thr-182 のリン酸化によって活性化されます。機能: 心筋細胞の分化および/または原始的な心室形成の最も初期の段階で一時的な役割を果たし、骨格筋の成長および/または分化の最も初期の段階でも重要である可能性があります。G2/M 細胞周期の調節における潜在的な役割。CREB 特異的コアクチベーターである CRT1-3 をリン酸化して抑制することにより、CREB の活性を阻害します。PTM: DNA 損傷時に ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。AMPK サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 1 つの UBA ドメインを含みます。細胞内局在: リン酸化されると細胞質に移行し、そこで YWHAZ に結合します。サブユニット: Thr-182 がリン酸化されると、YWHAZ に結合して活性化されます。

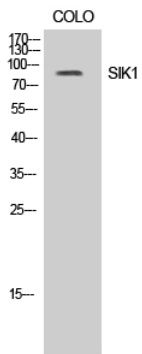
研究分野

細胞生物学、細胞周期、キナーゼ / ホスファターゼ、シグナル伝達、タンパク質リン酸化、セリン / スレオニンキナーゼ、その他のキナーゼ、エピジェネティクスと核シグナル伝達、クロマチン修飾酵素、アセチル化、HDAC、クラス II / HDA1 クラス、心血管、心臓、心臓形成、心筋細胞前駆細胞、心筋再生

画像データ



COLO205 細胞ライセートを PMA 125 ng/ml 30 μ l で処理し、SIK 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



SIK1 ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析